

The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

October
ISSUE



October 1, 2019
Volume 95

Message from the Vice Head of Schools

この9月、ラグビーのワールドカップが日本で始まりました。

2020年オリンピック・パラリンピックが東京で開催されるのは周知のことですが、その前年2019年に開かれるのがこのラグビーのワールドカップなのです。オリンピックやサッカーのワールドカップ同様このラグビーのワールドカップも4年に1度開催される世界的なイベントです。そしてこのラグビーには歴史的にも文化的にも注目すべき特徴がいくつもあります。

まず、ラグビーがもつスポーツの文化です。このラグビーが誕生した逸話は、よくメディアなどで取り上げられるのでご存知の方も多いかと思いますが、1823年、イギリスのパブリックスクールでフットボールのゲームをしていた際、一人の少年（エリス）がボールを手を持って走ったのがラグビーというスポーツの始まりだとされています。そしてそのパブリックスクールこそが、このスポーツの名前の由来となるラグビー校だったのです。

当時、このラグビー校の校長が宗教家としてそして教育者として活躍したトーマス・アーノルドでした。彼は学校生活の中心にキリスト教を置き、礼拝での説教や生徒たちとの語りの中で、「キリスト教的ジェントルマン」の考えを述べ、彼自身も敬虔なクリスチャンとして、牧師として、生徒の範となる言動を心がけ、生徒から大きな信頼を得ていたといえます。

スポーツにおいてもその考えは引き継がれ、体と体がぶつかり合い、激しくボールを奪い合ったり、ボールを持って走る相手に激しいタックルをしたり、体をはったプレーが多いラグビーというスポーツではありますが、「ボールを前にパスしてはいけない。」「プレーはボールの後ろに一度戻ってからでないといけない。」など、一見すると非効率なルールのように思われるその根底には、ずるいことをせず苦勞しながらボールを前に進める、そして苦勞を重ねた末に相手のゴールラインに飛び込みトライすることに、フェアプレーの精神で戦う意義を見出したのでした。

ラグビーはイギリスのパブリックスクールやその先のオックスブリッジなどで盛んに行われ、ジェントルマンのスポーツとして発展しました。このラグビーの精神を表す言葉として「ノーサイド」＝ゲームが終われば敵味方の関係はなくなり、正々堂々とプレーしあった仲間として、お互いを称え合う＝があります。ここにはスポーツマンシップの源流が見て取れます。

One for all All for one. 9月20日から11月2日まで開催されるワールドカップ。日本代表にエールを送りつつもこれから繰り広げられる熱戦に注目したいと思います。

ところで、同志社にとってもラグビーはとても関わりの深いスポーツのひとつです。林、平尾、大八木らが活躍した1980年代。特に1982年から84年にかけては、同志社が大学選手権を3連覇し、史上最強の学生チームと言われました。今回、同志社のラグビーを遡り、新島襄とラグビーとの関係を調べてみましたが、残念ながら新島とラグビーを結ぶ事実は見つかりませんでした。しかし、新島が学んだアーモスト大学は、アメリカで最も古くから体育を行った大学のひとつであり、キャンパスには広大な芝生が広がり、フットボールのフィールドが何面もある大学です。我々の校祖新島が学生時代どのようなスポーツに親しんだか興味あるところです。

同志社は古くから、知・徳・体を教育の柱に掲げ今日まで至っています。「健全な精神は健全な肉体に宿る：A sound mind is found in a sound body」とは、ローマの詩人ユベナリスの言葉ですが、スポーツをするのに適したこの季節に私たちも大いに体を動かしたいものです。（今年のスポーツデーは10月19日です）

副校長 城 恵市



キリスト教 教育テーマ

10月：誠実 October：Honesty

「何事も思い煩ってはなりません。どんな場合にも、感謝を込めて祈りと願いを献げ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超えた神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスにあって守るでしょう。」
フィリピの信徒への手紙 4章 6-7節

連休中に、「大草原の小さな家」のDVDを鑑賞していました。この時に観ていたのは「竜巻き」という回で、原題は「GOING HOME」でした。

ウィスコンシンの森から遙々馬車で旅をしてプラム・クリークの土地に住み着き、様々な開拓の苦勞の末、ようやく穏やかな日常が流れつつあったインガルス一家の上に、ある夜突然竜巻きが襲い、一夜にして家は壊れ家畜は大量に死に絶え、せつかく大きく育っていた畑の作物も全滅します。日頃は信心深く、勇猛果敢で一家の大黒柱であるインガルス氏もこの時ばかりはすっかり気持ちが萎えてしまい、「神の御心に沿って歩んでいるのにどうしてこんな目に合うのか。」と、早々にこの家と農場を畳んで故郷の森へ帰る決心を固めてしまうのです。

この土地を去りたくない娘のローラは父親の説得に努めますがうまくいかず、途方に暮れて教会へ赴き、牧師さんに相談します。「父さんはいい人なのに、なぜあんな目に合うのか。」「父さんが教会に来なくなったのは、神さまに怒っているからだと思う。」などと、胸の内を打ち明けます。話を聞いていた牧師さんは「いい人だから災難に遭わないのではなく、それを乗り越える力を神が与えてくださるのだ。」と、論じます。それでも煮え切らないローラに最後に言ったことは、「ここは教会だ。」で、その後、ローラと両手を繋ぎ合わせ、父親のために祈るのでした。

実はこの教会でのくだりは昔、テレビ放映された際にはカットされていたようで、この部分だけ日本語の吹き替えがありません。日本で放映するのにさして重要ではない場面と判断されたようで、大変残念です。なぜならその後、ドラマは思いがけぬ方向から大団円へと向かっていくのですが、それは決して偶然の為せる業ではなく、「あらゆる人知を超えた神の平和」が、人々の心に働きかけた結果だからです。

インガルス氏から土地を買い受けようとやって来た老夫婦はその昔、このプラム・クリークで新婚生活を始め、やはり竜巻きが原因でこの土地を手放した人達でした。老境に達し、今一度この懐かしい故郷に二人で戻って来て住むことを夢にしていたのです。しかしながら、インガルス一家が本当はこの土地を離れたくないこと、家と農場を売る約束をしてしまったことを後悔していることを知り、「この年齢であれだけの農場は管理できないから。」ということにして、再び元居た場所へと去っていくのでした。少し寂しそうな老妻の表情に気付いていた老人は、二人きりになった時妻を気遣いますが、彼女は微笑んでこう言います。「私はあなたと一緒に、どこに居ても幸せなのよ。」

このセリフは、家庭というものが家や土地ではなく、そこに住む家族の愛情で成り立っていることを思い起こさせてくれます。結局、「故郷」という意味での「GOING HOME」は両家族とも為さなかったのですが、「家庭」という意味では、両者ともに素晴らしいHOMEを再発見した物語になっています。

(参考資料：大草原の小さな家—シーズン2—DVD-SET「竜巻き GOING HOME」より；発売元 ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント) Christian Education Committee 石川真弓

<お知らせ>・10月の『おにぎりけんきん』活動は、10月8日(火曜日)です。年に一度、地震や風水害などに見舞われた地域の方々の為に捧げますので、ご賛同いただける方はお子様に献金をお持たせください。

3年生宿泊学習 (Grade 3 Overnight School Event)

9月18日(水)から3日間、奈良県川上村で宿泊学習を実施しました。この宿泊学習はUOI Unit 3のCentral idea「人は、アートを通して、個性を様々な方法で表現する。」の探究につながることを目的として計画しています。

1日目は、生憎の朝からの雨で、蜻蛉の滝での活動と昼食の時間はとれませんでした。バスは川上村の『匠の聚(たくみのむら)』に直行し、川上村村長をお迎えして入村式を持ちました。ここには様々な芸術家が招集されており、子ども達は3つのグループに分かれ、油絵、日本画、木彫りの3つのアートについて、制作活動の拠点となるアトリエの見学を中心に、お話やインタビュー、作品作りの体験をしました。その際、絵に描かれたものが示すメッセージ、絵の具やキャンバスの質感で表す豊かな表現、木目や削りだす面の違いで様々な表情を彫りだす技術等、アーティストの方々がこだわりを持っているポイントをたくさん教わりました。

その後、2つの活動をしました。1つは墨絵体験で、墨の濃淡、筆の動きなどで白と黒のコントラストだけで竹を描くことを体験しました。もう1つは、裏山に入って、森を守る大切さ、木々が持つ特徴などを人間の生活と関連付けて教えていただき、川上村の人々が森を大切に水を保つ活動を日々行っていることを知りました。



2日目は2グループに分かれ、陶芸と木工細工の制作活動に取り組みました。陶芸では、電動ろくろを使った作品と、手びねりで自由に形付けられる作品作りにチャレンジしました。粘土の感覚に四苦八苦しながら、子ども達が示したいものと考えて頑張って作りました。また、木工細工では、様々な木材のパーツを使って、オリジナルお面を作りました。どちらの活動でも、子ども達の考えたテーマが表現された、個性的なデザインの作品がたくさん出来上がりました。

その後、大滝ダムと防災センターの見学に行きました。今年は、ダム本体の中を見学することができ、子ども達は、ダムの大きさに感動していました。防災センターでは、豪雨体験をすることができ、川の水をコントロールすることが下流に住む私たちにどのような恩恵を与えているのか、身をもって学ぶことができました。

夜には、丹生川上神社で龍神と川上村の関係を宮司様から、星の先生からは、楽しい星のお話とクイズをしていただきました。お話の後、外に出て、満天の星空を観察しました。都会ではなかなか見ることのできない流れ星や天の川を見て子ども達は本当に感動していました。



3日目は、森と水の源流館を訪れました。ここでは、川上村の取り組む治水についての学習とストーンペイントにトライしました。川を守る活動が普段の生活と密接につながっていることを理解しやすい説明で教えていただきました。また、ストーンペイントでは、川の石の形を工夫し、いろんな絵をペイントしました。

3日間を通じて、川上村の人々やホテルの人々、見学場所のスタッフの皆様の優しさと親切のおかげで、子ども達は大変充実した活動を行うことが出来ました。今回の宿泊学習で得たものを、Unit 3の活動につなげて、ユニークな自己表現をしてくれるだろうと期待しています。



DIA LIBRARY からのお知らせ

相手に伝わる文章を書こう(Infographicsを文章に)

相手に伝えるための文章(説明文)を書く力を子ども達に付けたいと考えておられる5年生の先生と相談して、春学期に図書館で「Infographicsを文章にしよう」と銘打って授業を実施しました。Infographics (infographics) とは、データが視覚的に分かりやすい形で表現されたものです。information + graphics という意味の造語で、一般的には情報を図形化したものとなります。最近、身の回りでもたくさんInfographicsの実例を見ることができます。実際にそれらに触れてもしっかりと意味を読み取れていなければ意味がありません。そこで、それらをしっかりと読み取り、そして文章化できるようになることを授業ではねらいました。もちろん、図書館で授業をすることで、他の資料でその情報のウラを取る、言葉の意味を他の辞典などで調べるなどの学びも取り入れることが可能になります。

5年生はUnit2「Who we are」の探究中であったことから、その学びのActionとなるように『人体について知っておくべき100のこと』 アルクス・フリス他文 小学館を主教材としました。

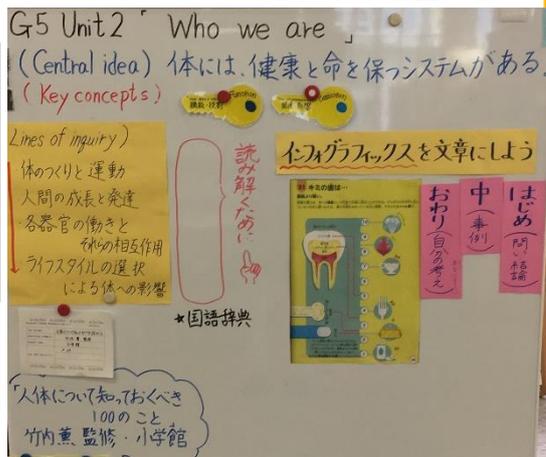
まず、子ども達は100のトピックの中から、自分の興味のあるタイトルを選びます。そして、そのInfographicsの情報をしっかりと読み取り、説明文の型に当てはめながら文章化していきました。簡単に文章化といっても、図や絵などの情報やそこに書かれた短い言葉を文章にするのは簡単ではありません。

子ども達に説明するために、実際に私もひとつのトピックを選んで文章を作り、その過程を子ども達に示しました。「わからない言葉(知っているつもりでも調べてみると新たな発見が多くあります)を国語辞典、百科事典、専門書、インターネットなどで具体的に理解し、それらをどのように文章にしていけるのか」について説明しました。子ども達は作文の過程で、「話し言葉」を使ってしまったり、「常体」に文末をすることに挑戦することが初めてで「敬体」が混在してしまったりということがありました。でも、自分の文章をしっかりと推敲していく中で子ども達は多くのことを学び、しっかりした文章を書くことができました。

司書教諭 上里 久美



使用した本、そして板書の一部です。



10月の主な行事・予定		
1	Tue	G1 授業参観③④ G6 修学旅行
2	Wed	G5 授業参観②③④ G6 修学旅行
3	Thu	G2 授業参観②③④ G6 修学旅行代休
4	Fri	G6 修学旅行代休
5	Sat	
6	Sun	
7	Mon	Unit4(week1) G4 つぼみスクール授業参観③④
8	Tue	G5 稲刈り①② おにぎり献金
9	Wed	委員会
10	Thu	G5 奈良校外学習 G3 授業参観⑤⑥⑦
11	Fri	G1 宿泊学習 G4 校外学習
12	Sat	G1 宿泊学習
13	Sun	
14	Mon	体育の日
15	Tue	Unit4(week2)
16	Wed	委員会
17	Thu	G5 ゲストティーチャー⑤⑥ G6 授業参観⑤⑥
18	Fri	
19	Sat	スポーツデー
20	Sun	
21	Mon	スポーツデー振替休日
22	Tue	即位礼正殿の儀
23	Wed	Unit4(week3) スポーツデー予備日
24	Thu	
25	Fri	ハロウィーン G5 ゲストティーチャー①②
26	Sat	
27	Sun	
28	Mon	Unit4(week4)
29	Tue	G5 宿泊学習
30	Wed	G5 宿泊学習
31	Thu	G5 宿泊学習

11月の主な行事・予定	
10/29(火)~11/1(金)G5宿泊学習	
11/1(金)G6校外学習(広島)	
11/6(水)避難訓練 11/7(木)収穫感謝祭	
11/9(土)きずな祭 11/15(金)点灯式	
11/25~12/6参観・学期報告会期間(詳細は後日)	
11/29(金)創立記念日	